

### グローバル人材育成プログラム に参加して

山下 慶 輔  
Keisuke YAMASHITA  
機械システム工学科 3年

#### 1. はじめに

2016年8月11日～29日にかけて、理工学部のグローバル人材育成プログラムを通して、アメリカの企業でインターンシップを行った。そこで、世界で必要とされているグローバルな人材とは何か、そしてなぜグローバルな人材が必要とされているのか、日本とアメリカのワーキングスタイルや文化の違い、さらには語学（主に英語）を学ぶための研修をカリフォルニア州サンフランシスコ周辺で行った。

#### 2. シリコンバレー企業視察

8月12日に企業視察を行った。主に Google サンフランシスコオフィスでは、社員の方の案内のもと、特別に社内の様子を見せて頂いた。アメリカの企業はその社員に快適な労働環境を提供することを心がけているということを耳にしたことがあったが、社内には従業員が使用できる小部屋、無料のカフェテリア、50メートルおきに配置されているといわれるキッチン、無料のゲームコーナーなどが設けられていた。また、従業員の方はアメリカだけでなく、アジア出身の方々も多かった。カフェテリアで休憩されている社員の方々は、大変リラックスされていた様子で、積極的に社員同士でのコミュニケーションを行っていた。ツアーの方によれば、このような何気ない会話から素晴らしい発想が生まれたりするのだという。様々な国籍の方と同じ職場で仕事をする、まさにグローバルな人材が必要とされる環境であった。

#### 3. 講演会

8月13日にサンノゼのホテルにて、アメリカで

海外勤務されている工藤様、戸村様、外園様に工作上的体験談とともに日本の学生に対するアドバイスをして頂いた。その後、小グループに分かれてテーマごとのディスカッションを行った。工藤様は、もともと海外にそれほど興味はなく、日本にいたいという願望が強かったそうであるが、海外に出ようと思われたきっかけや、アメリカと日本において働くことに対する価値観の違い、アメリカでは成果主義が強いことも語ってくださり、シリコンバレーの良い点、悪い点の両方を知ることができた。私と同年齢である戸村様は、ディスカッションにおいて、「なぜ大学に行くのか」、「安定した生活とは何なのか」など、私たちが考えたこともないようなことを私たちに質問し、返答に困ってしまう場面があった。戸村様のように何気ないことに疑問を持つことが必要であると学んだ。外園様は、ご自身が社長をされており、その視点からのお話が大変興味深いものであった。「利益を出すのは社員とその家族の幸せのため」という考えをお持ちで、会社の雰囲気も社員の方々が働きやすいように心がけておられるそうだった。12日に見学させて頂いた、Google サンフランシスコオフィスの様子を思い出し、社員を大切にするというアメリカの社会文化を改めて学ぶことができた。

#### 4. ホームステイ

13日の講演会終了後、ホテルからサンフランシスコにあるホストファミリーのお宅へと移動した。私のホームステイ先はフィリピン出身の方々の23歳の男性とその叔父にお世話になることとなった。非常に親切な方々で、インターンシップをさせてもらう企業までの行き方を一緒に確認してもらったり、サンフランシスコの観光名所を案内してもらったりと、楽しませてもらった。また、フィリピンの郷土料理もおいしく頂き、異国の食文化にも触れることができた。日本の主食はお米であるということを知っていた彼らは私のお米を毎日炊いてくださったり、普段フィリピン語で話すところを、私

がいるときには身内どうしても英語で話して下さるなどたくさんの気遣いをして頂き、不安だったアメリカでの生活を不自由なく過ごすことができた。アメリカではたくさんの国々から人々が集まり、多様な文化や言語が存在している。それは、日本ではまず見られないといってもいい光景であり、その環境の中で生活するということは良い経験となった。また、その国々の人々が話す英語には固有のアクセントがあり、例えばフィリピンのなまり、インドやロシアのなまりなど多数存在する。これもまた興味の惹かれるものとなった。

## 5. ホスト企業先での研修内容

今回のインターンシップでは、世界で暮らしている日系アメリカ人の歴史について研究されている、サンフランシスコの日本町というところにある全米日系歴史協会というところでお世話になった。職場には日本人はいなかったが、日系の方がほとんどで、日系アメリカ人のことに関する書物や、インタビューを通して、その歴史やバックグラウンドについて探求されていた。私が担当させて頂いた業務の内容は、日系の方が日本語でインタビューのやり取りを収録したテープの内容を聞いて、そのやり取りを日本語の文章に起こすという作業であった。日系アメリカ人のルーツをたどれば、その先祖の方々の中には第二次世界大戦後に異国からアメリカに渡り、そこで大変な生活を強いられるなど、苦勞もたくさんあったのだということをその業務を通して学んだ。アメリカでは先ほども記したように、様々な国から人々が集まり、住人の方々には様々な文化的なバックグラウンドが存在している。私が今回、全米日系歴史協会学んだ日系アメリカ人のルーツは、その一部にしか過ぎない。今でこそ人種による

差別は減ってきているものの、このような背景を理解することにより、今後の差別のない平和な社会につながっていくものと思われる。全米日系歴史協会に働かされている方々もまた親切で、休憩時間に職場近くの日本町の名所を案内してもらったり、英語が慣れていない私のために言語であったが、私が完全に理解できるまで何度も分かりやすく別の表現を用いながら話して下さり、私も職場の雰囲気にスムーズに溶け込むことができた。語学を向上させるためのヒントも教えて頂き、非常に充実した日々を過ごすことが出来、大変感謝している。

## 6. おわりに

今回のプログラムを通して、自分自身の語学力を試すことができたと同時に様々な人種や文化が共存した環境の下で働き、日常生活を行うことによってアメリカの社会を学ぶことができた。語学に関して私が一番感じたことは、グローバルな社会において英語は話せて当然でなければならないということである。日本人は普段英語を使わないからという甘えは通用しないということをお店で買い物をするときや電車に乗る時の会話など何気ない瞬間で強く感じた。また一方、グローバル化が進む社会において必要なのは語学力だけではない。様々な文化や思想をどのように受け入れていくかが大切であり、異なる文化や考え方を否定しあっているはいつまでもより良い社会は生まれない。他を認め合うことによってグローバルな社会を実現させているのがアメリカのカリフォルニア州サンフランシスコであった。今回のプログラムは私がグローバルな人材を目指すために何が必要なのか、その手がかりを知る非常に良い機会となった。